

こころみ

2006. 1. 20

担当 教務主任会

記録的な大雪のもと、子どもたちの歓声とともに後期後半または三学期がスタートしました。各校では、学力向上に向けて一年間の学習のまとめに力を入れたり、補充指導の実践や計画立案等に鋭意取り組まれていることと思います。

4月から、大館市では、比内地区並びに田代地区を除いて二学期制が本格実施となります。今回の「こころみ」は大館市教務主任協議会内で実施したアンケートの結果をもとにしながら、「1. 学習状況調査の結果からみて成果があったと考えられる取り組み 2. 授業時数の確保の実際 3. 二学期制」を柱にして皆様にお知らせしたいと思います。

※ 「小」は小学校を、「中」は中学校を表します。

※ アンケートに記入された主なものを、多い順に上から掲載してあります。

1. 平成17年度学習状況調査の結果を受けて…成果があったと考えられる取り組み

小

- ・放課後の補充指導や個別指導
- ・少人数学習やTT
- ・魅力ある授業の構築
- ・朝学習の工夫
- ・過去問題への挑戦

中

- ・放課後の補充指導や個別指導
- ・魅力ある授業の構築
- ・少人数学習やTT
- ・50分授業の確保
- ・NRTの分析とその回復指導

→ 小中ともに、放課後の補充指導や個別指導が効果的であったようです。また、少人数学習やTT、魅力ある授業の構築も、小中ともに上位にあげられています。

2. 授業時数の確保の実際

(1) 文部科学省標準時数に対する上乗せ時数の各校学年平均

① 教科の上乗せ時数

小 45.8時間

中 22時間

② 領域の上乗せ時数

小 3.7時間

中 11.5時間

→ 小中を比較すると、小学校では教科に、中学校では領域に多く上乗せして授業時数を確保していることがわかります。

(2) 上乗せ方法の特徴

小 ・国、算に重点を置く
・研究教科に重点を置く

中 ・平均的に上乗せする

→ 小学校では、多くの学校で、国語と算数に重点を置いて上乗せされています。

3. 各学校で取り組む共通実践事項の確認～[第5次学力向上対策構造図(3か年計画)]より

(1) 小・中連携を通じた学力向上の取り組み

- 9年間を見通した系統的な指導

(2) NRT、CRT等の検査の分析と結果に基づいた指導

- 結果を踏まえた日常実践における意識的指導、補充指導

(3) 二学期制実施にかかわる教育課程の工夫

- 学びの連続性を生かした教育課程の工夫

(4) 各学校間の交流

- 交流授業等の積極的活用
- 情報の共有化

4. 二学期制について

(1) 市内先行実践校より

① 実施に係わる教育課程の工夫

小

- ・行事の見直し
- ・秋休みの設定の仕方
- ・面談の活用(児童面談、保護者面談)

中

- ・行事の見直しと精選
- ・面談の活用(二者、三者、教科)
- ・通知表の発行回数

→ 小中ともに、行事の見直しと面談の活用があげられています。行事の見直しには実施時期の検討が、面談の活用には方法と実施時期の工夫が多数あげられています。

② 「ふりかえりカード」の工夫

小

- ・先生からのアドバイスの記入
- ・単元テストの結果に基づく評価の記入
- ・長期休業中のめあての記入

中 (※ 活用していない)

→ 小学校では、学習状況や評価の効果的な連絡の手段と位置付けて活用している学校が多数あります。

③ 長期休業中に「学びの連続性」を保つための工夫

小

- ・学習相談日または学習会の設定
- ・ふりかえりカードの活用
- ・取り組むべき学習のポイントの個人指導

中

- ・補充指導や自主学習の場に教室開放
- ・講座開設
- ・個別指導の実施

→ 「学びの連続性」は、二学期制を実施するうえでのキーワードとなっています。小中ともに長期休業中に子どもたちが登校する機会や場を設定し、指導にあたることによって「学びの連続性」を保つ手立てとしている学校が多数あります。

④ 成果

小

- ・教育課程の見直し
- ・学びを確かにする役割
- ・長期休業のめあてや見通しの明確化

中

- ・評価の工夫や充実化
- ・教育課程の見直し
- ・個別指導の充実

→ 二学期制を導入することによって「教育課程を見直すよい機会となった」そして「指導の充実や評価の工夫にもつながっている」ととらえている学校が多数あります。

⑤ 課題

小

- ・行事の見直し、精選、改善
- ・二学期制の効率的な運用
- ・ふりかえりカードや通知表の工夫

中

- ・前後期の区切りの明確化
- ・行事の実施時期
- ・通知表等家庭との連絡の緊密化

→ 行事のさらなる見直しと学習状況や評価の効果的な連絡方法を、さらに工夫したいと考えている学校が多数あります。

(2) 市内未実施校より

自校が二学期制を導入するうえでの課題

小

- ・学習状況、評価の連絡方法
- ・行事の見直し
- ・保護者や地域の理解

中

- ・通知表の見直し
- ・行事の見直し、秋休みの設定
- ・学習状況、評価の連絡方法

→ 小中ともに行事の見直しと学習状況、評価の連絡方法の検討があげられます。学習状況、評価の連絡方法の検討の際には、先行実践校の取り組みが重要な資料になると考えられます。小学校では、保護者や地域の理解が上位にあげられています。